

広がる、地域の親子交流



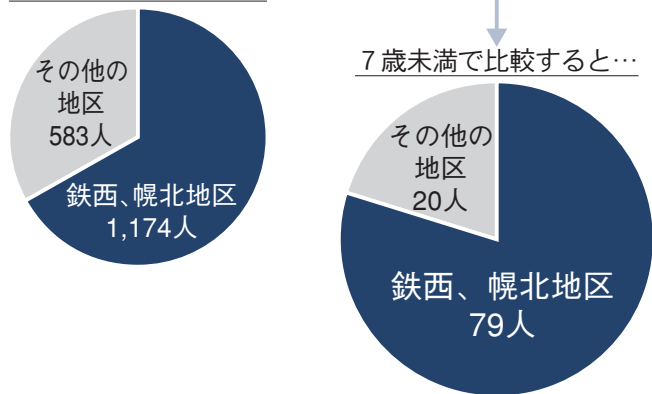
「人口減社会」を迎えたといわれる現在。次代を担う子どもたちの育成が大きな課題の一つとなっています。今回は、地域の特徴に合わせた子育て支援の取り組みを紹介します。

■地域のニーズに応える

北区は、区内の大学に通う留学生やその家族などが多く暮らしていることもあり、外国人登録者数が市内で2番目に多い区です。保健センター保健師は、乳幼児健診の際に、ある外国人の母親から「言葉が通じないので、家や公園で親子だけで遊んでいます。日本のお子さんと遊べる場を紹介してほしい」と相談を受けました。調べてみると、同センターの平成14年度から16年度までの乳幼児健診対象となっている外国人は52人、その内訳を地域別にみると48人が鉄西、幌北地区に住んでいたのです。相談を受けた保健師は、外国人が多いという特徴がある地域のニーズに応えるような取り組みができないだろうかと考えました。そこで思い当たったのが、鉄西地区で月1回定期的に開催され

ている地域主体の子育てサロン「なかよしクラブ」です。早速、主催している鉄西地区民生委員・児童委員協議会に相談したところ、国際プラザに登録している外国語通訳グループや北海道大学の学生、区の子育てボランティアなどが協

区内の外国人登録者数



(※数値はいずれも平成17年11月30日現在)

力してくれることになり、昨年9月から「なかよしクラブ」外国人親子との交流会」が始まりました。初回に参加した3組の外国人親子は、最初は緊張していたものの、時間がたつにつれ、ほかの母親たちとも次第に打ち解けるようになってきました。

「ここは外国語通訳者や外国人の子育てボランティアなどがあるので、とても安心。私は日本語がある程度話せますが、話せない人にとつて通訳者がいることは心強いです」と話すのは、香港出身で約6年前に来札した山田サイハさん。1歳4カ月の長女・真喜穂ちゃんと一緒に参加しました。サイハさんの知人には、言葉の壁などで、同じくらいの年齢の子どもを持つ親と交流する機会もなく、悩みを抱えているという人も少なくないといえます。

交流会を主催している同協議会の主任児童委員、今泉恵美子さんと竹田澄子さんに話を聞きました。

「なかよしクラブの特長は？」

「遊びに来たいという方は、鉄西地区に限らず、誰でも参加することができるところなんです。例えば、北区以外にお住まいの方で、



鉄西地区民生委員・児童委員協議会の今泉さん（左）と竹田さん



交流会を楽しむ山田サイハさんと真喜穂ちゃん、エルニさん（左）



さまざまなボランティアが、外国人親子を迎えます